

2021年6月8日

「食と農の市民談話会」のねらい (皆さまと話し合いたいこと。)

▶2021年 食と農の市民談話会

- 第1回 6月8日(火) [和暦 草月朔日:6/10]
どこでもドア・都会からの農ライフ命 (仮題)
小谷あゆみさん (農業ジャーナリスト、ベジアナ)
(参考) <https://ameblo.jp/ayumimaru1155/>
- 第2回 7月13日(火) [和暦 水無月朔日:7/10]
私が帰還困難区域で牛を飼う理由 (仮題)
谷さつきさん (もーもーガーデン、(一社)ふるさとと心を守る友の会、編集・大塚野)
(参考) <https://www.facebook.com/friends.fumane>
- 第3回 8月10日(火) [和暦 文月朔日:8/8]
現場から見える日本の食、農の課題 (仮題)
榊田みどりさん (農業ジャーナリスト)
(参考) <https://www.zck.or.jp/site/column-article/5039.html>
- 第4回 9月7日(火) [和暦 粟月朔日:9/7]
市民協働による関係人口づくりを通じた持続可能な社会づくり (仮題)
大和田順子さん ((同志社大学ソーシャル・イノベーションコース教授)
(参考) <https://policy.doshisha.ac.jp/faculty/oowada/info.html>
- 第5回 10月5日(火) [和暦 長月朔日:10/6]
私がお寿司に巻き込んでいるもの (仮題)
八幡名子さん (巻き寿司やさん、東京・八王子)
(参考) <https://www.yahatameikomaki.com/>
- 第6回 11月9日(火) [和暦 神無月朔日:11/5]
食と資本主義の歴史—人も自然も壊さない経済とは? (仮題)
平賀 緑さん (京都橘大学准教授)
(参考) <http://www.showado-kyoto.jp/book/b432689.html>

現在、日本の食や農は多くの問題を抱えています。
例えば、栄養バランスの崩れと食習慣の乱れ、食への不安の高まり、食品ロスの増加、食料自給率の低下、担い手の減少と高齢化、荒廃農地の増加、中山間地域等における集落の消滅等……。
これらにはそれぞれ複雑な原因がありますが、共通する背景として、食(食卓)と農(生産現場)との間の距離が離れてしまっていることがあります。消費者には産地や生産者の姿が見えにくくなったことから、食べものは単にお金を出せば買える「商品」でしかなくなりました。その結果、食べものを大切にし、生産者を敬い、あるいは食べものをもたらし続けている自然や環境を大切にしようという気持ちが薄れてきているのではないのでしょうか。
離れてしまった食と農の間を再び縮め、今や圧倒的大多数となった都市に住む消費者が、食や農に関わる問題を自分ごととして捉えられるようになることが必要です。
本談話会は、そのきっかけ作りの一つの試みです。

- ◆Zoomを使用したオンラインでの講座です
- ◆毎月1回火曜日(和暦の新月の日に最も近い火曜日)19:00~21:00
(話題提供1時間、質疑応答・意見交換1時間程度)
- ◆定員は毎回30名まで(先着順、市民科学研究室会員の枠は原則15名まで)
- ◆参加費:1回500円(市民科学研究室会員は無料)
- ◆申し込み:市民科学研究室ウェブサイトの専用サイトよりお願いします
- ◆お問い合わせは、
主催者であるNPO法人市民科学研究室へ
電話:03-5834-8328
メール:renraku@shiminkakuga.org

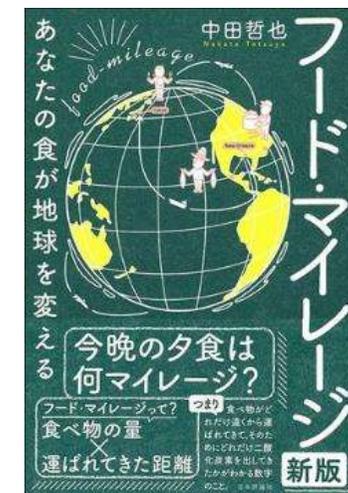
市民研
Citizen Union of Shiminkakuga

企画・進行 中田哲也

ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」主宰

<https://food-mileage.jp/>

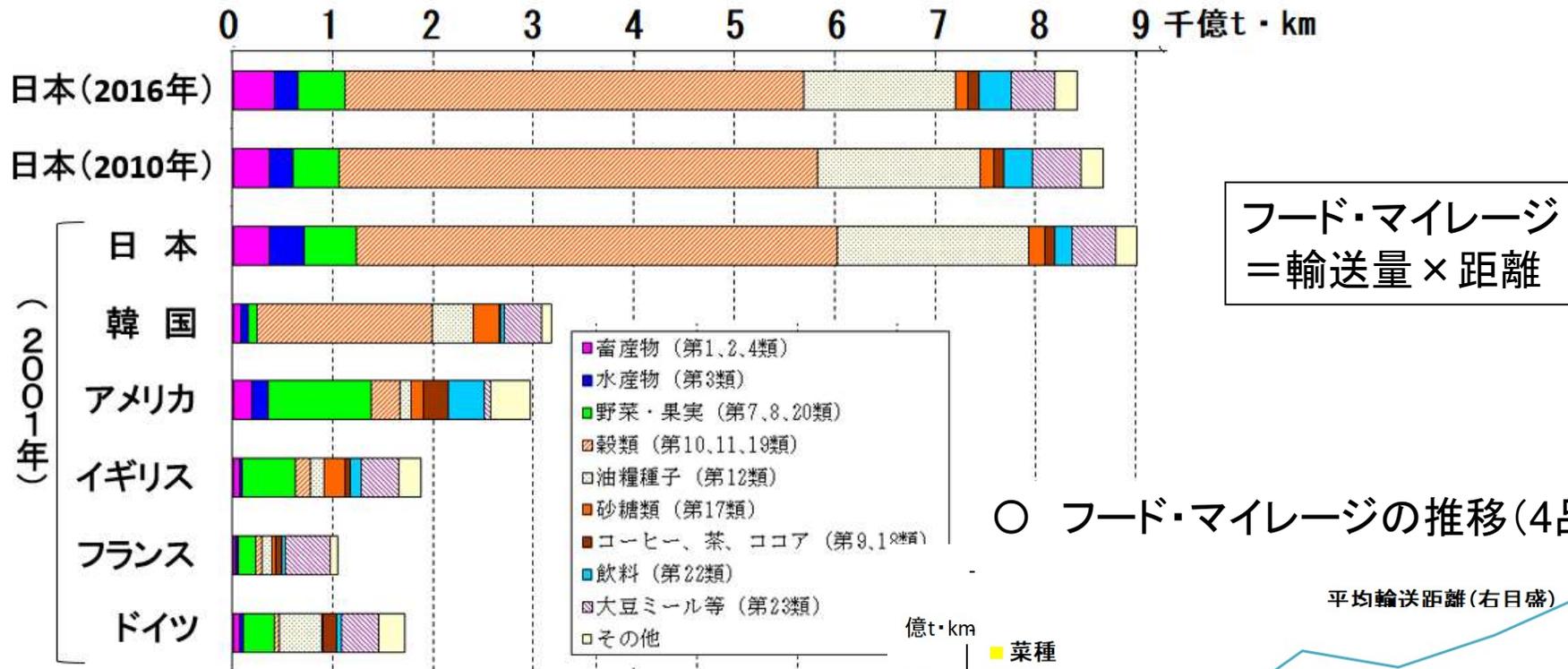
注:本資料の意見等は全て個人のものです。



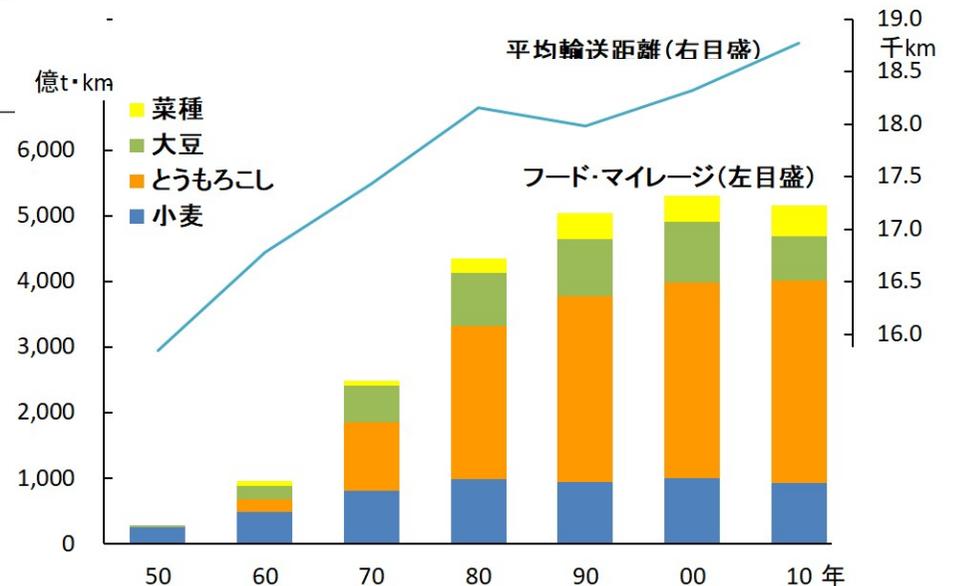
日本評論社(2018.1)

拡大する「食と農の間の距離」

○ 輸入食料のフード・マイルージの国際比較



○ フード・マイルージの推移(4品目)



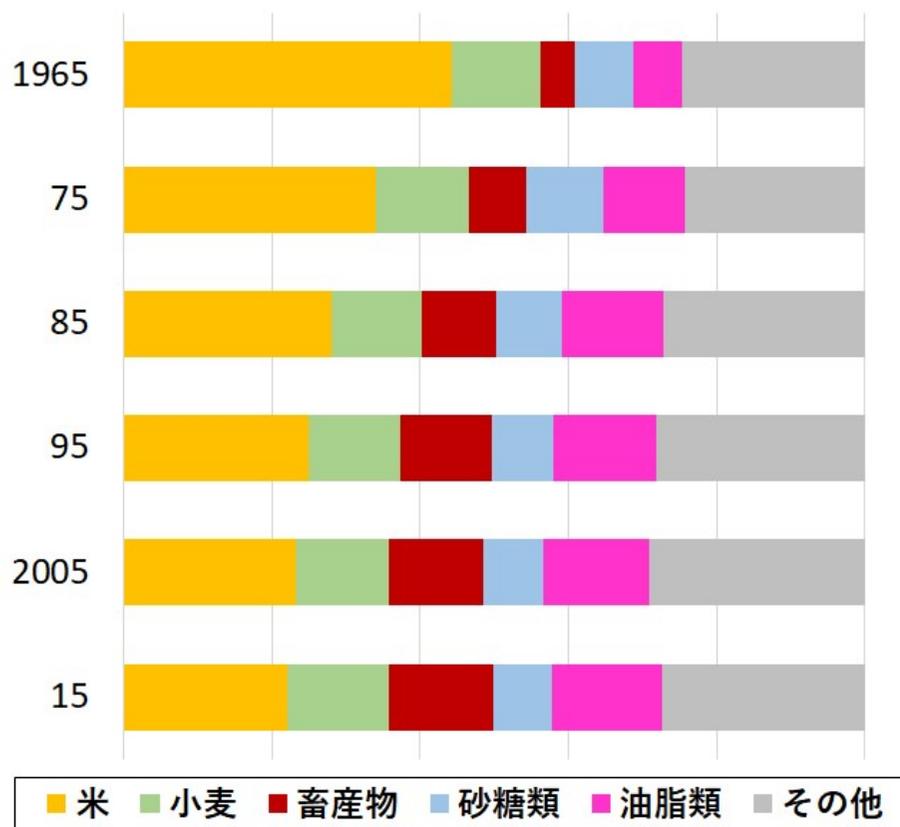
長距離輸送されてきた大量の輸入食料に依存
安定供給のリスク
輸送過程で大きな環境負荷

「食と農の間の距離」の拡大

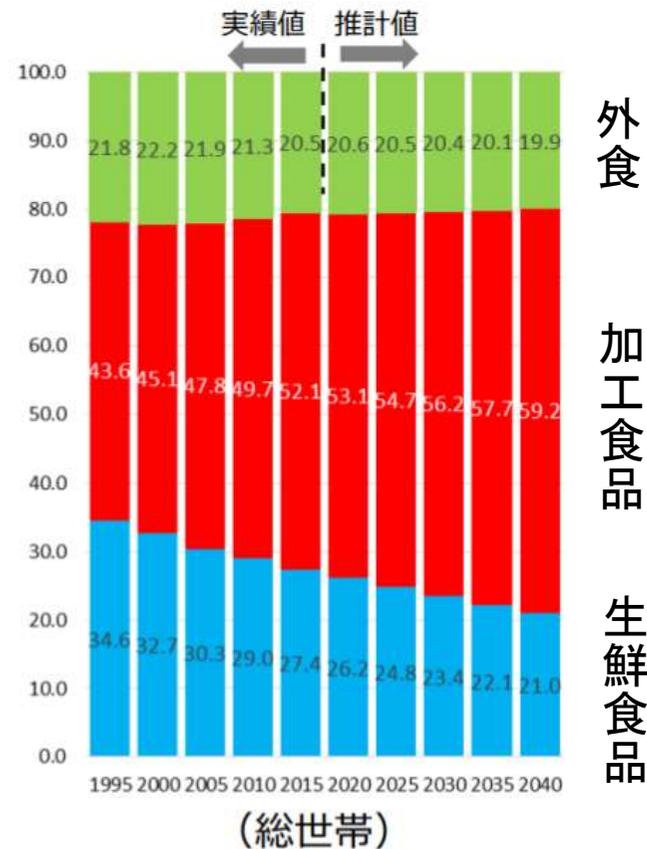
「食と農の間の距離の拡大」の背景には、 私たち自身の**食生活の大きな変化**がある。

○ 供給熱量の構成比の変化

0% 20% 40% 60% 80% 100%



○ 家計における食料費消費構成の変化



資料: 農林水産省「食料需給表」

https://www.maff.go.jp/primaff/seika/attach/pdf/190830_1.pdf

資料: 農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計(2019年版)」

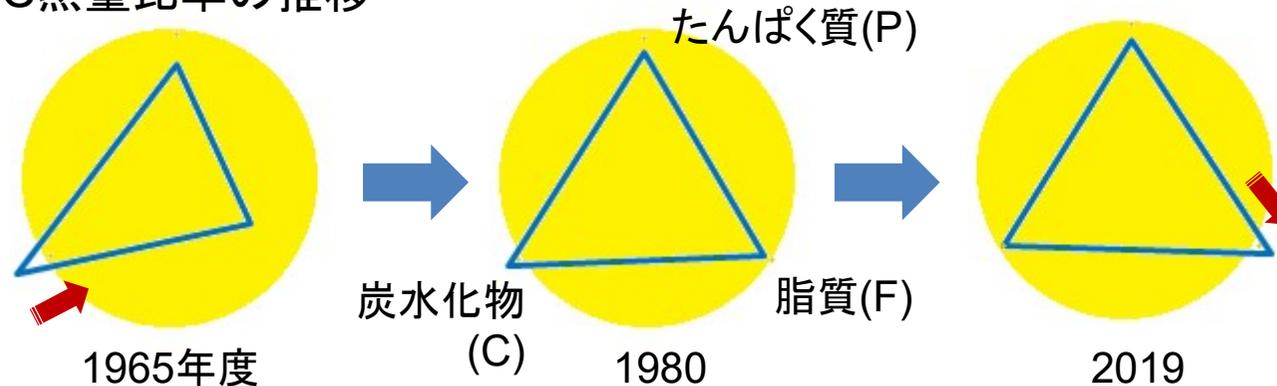
https://www.maff.go.jp/primaff/seika/attach/pdf/190830_1.pdf

米が半減すると同時に、畜産物と油脂、それに加工食品が大幅増！

距離の拡大・食生活の変化がもたらしている多くの問題

① 栄養バランスが崩れている。

○ PFC熱量比率の推移

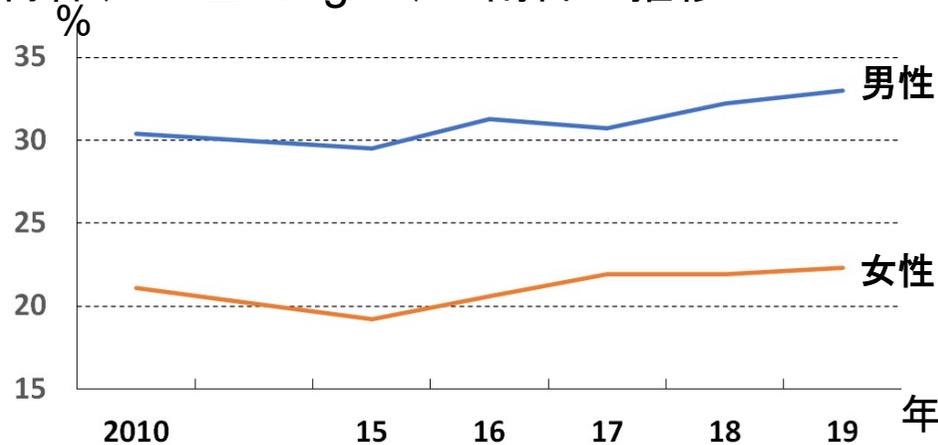


資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査」

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html

注:円の周縁が厚生労働省「日本人の食品摂取基準(2020年)」の目標量の中央値を示している。

○ 肥満者(BMI $\geq 25\text{kg}/\text{m}^2$)の割合の推移



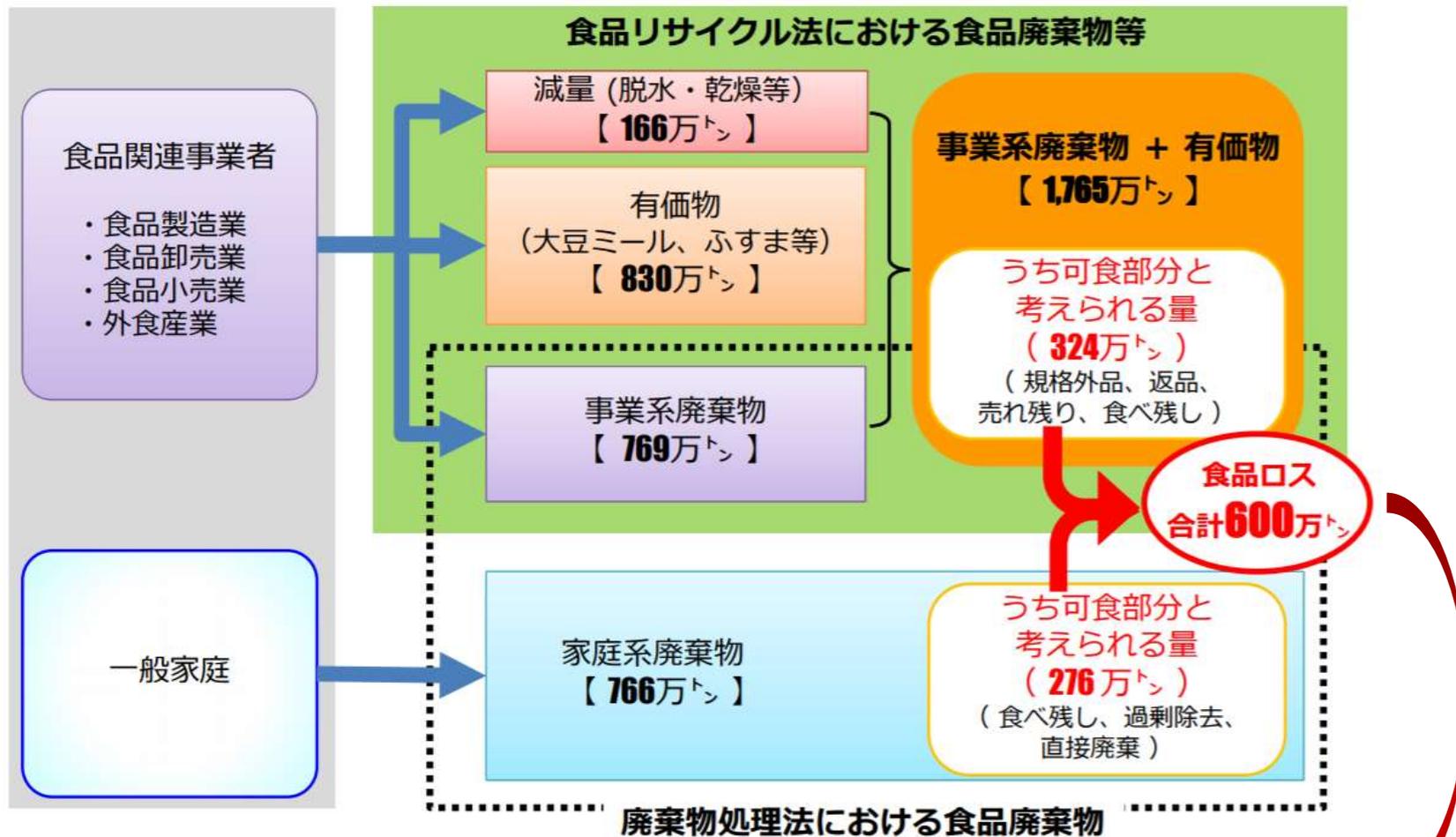
今の食生活は
体に悪い?!

注: BMI (Body Mass Index)
= 体重[kg] / (身長[cm])²

資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査」

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html

問題② 大量の食品ロスが発生している。



国民1人当たり 1日当たり 約 130 g (≒お茶碗1杯のご飯の量)
年間 約 47 kg (≒年間米消費量)

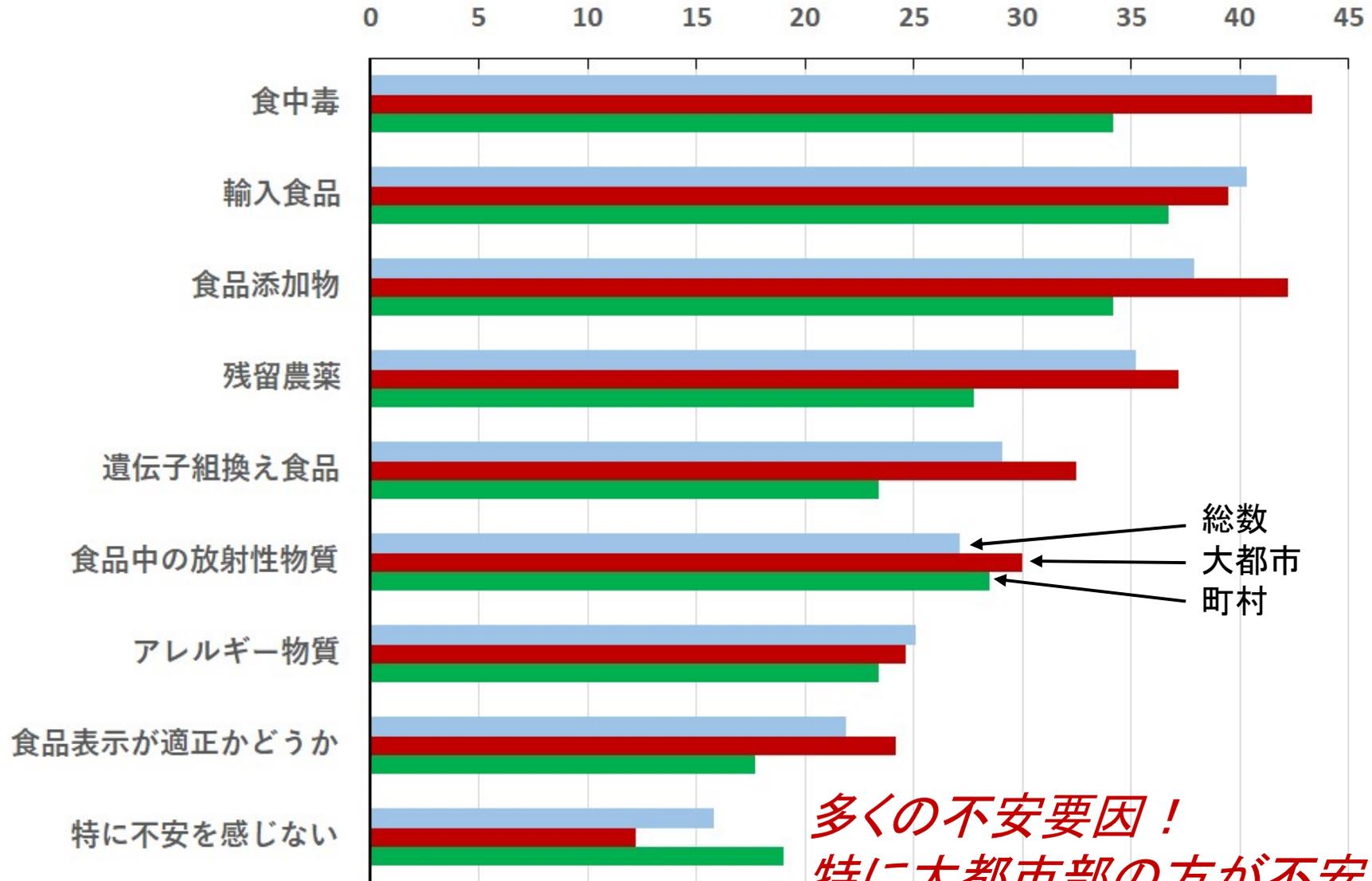
資料: 農林水産省「食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢」(2019年度推計)

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/attach/pdf/161227_4-180.pdf

食べものを大切にすることが薄れている?!

問題③ 食に対する不安が高まっている。

○ 食品の安全に関して不安に感じること



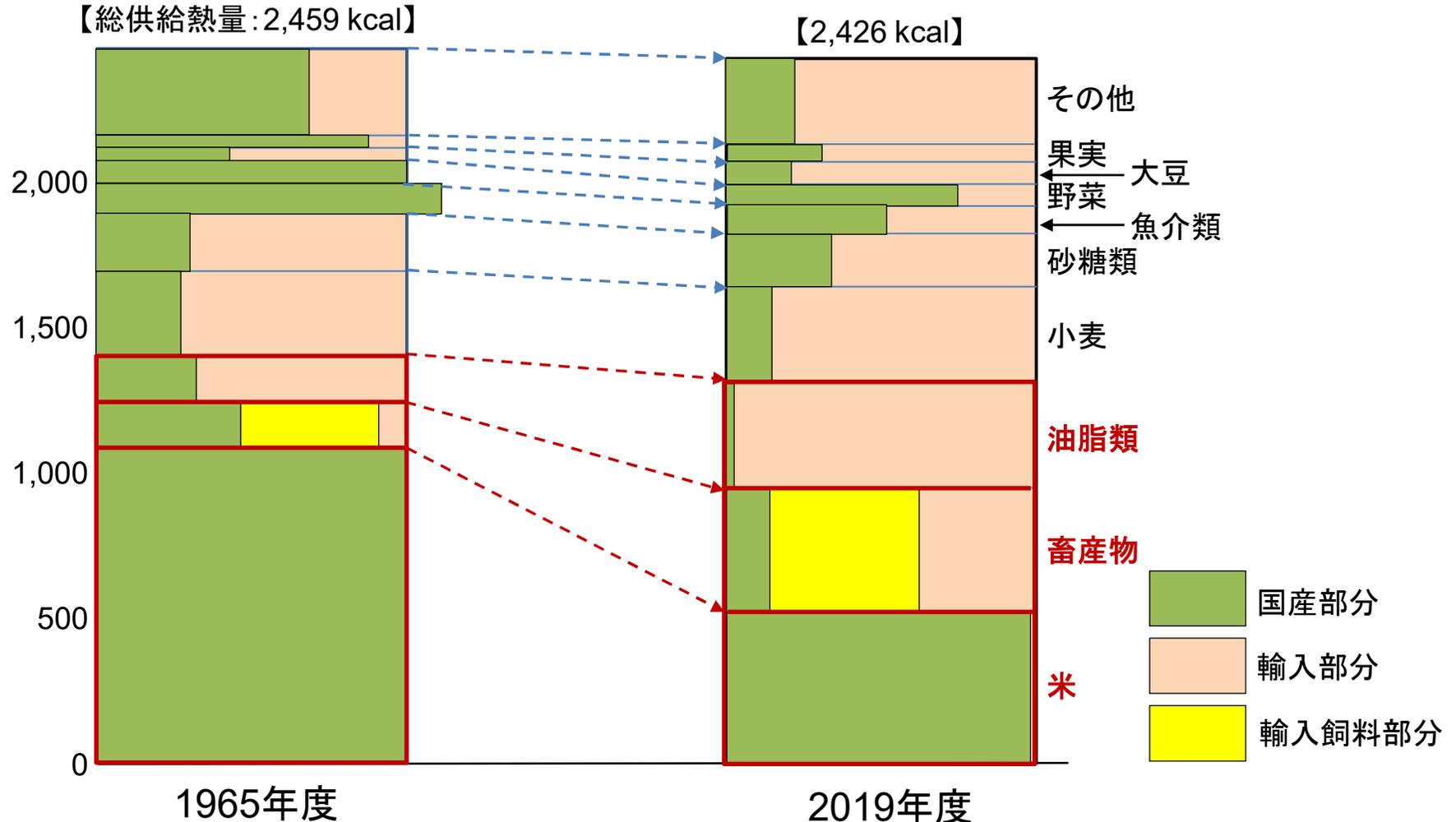
**多くの不安要因！
特に大都市部の方が不安大！**

資料：内閣府「食と農林漁業に関する世論調査」

<https://survey.gov-online.go.jp/h30/h30-shoku/2-1.html>

問題④ 食料自給率が低下している。

○ カロリーベース食料自給率の推移



資料：農林水産省「食料需給表」

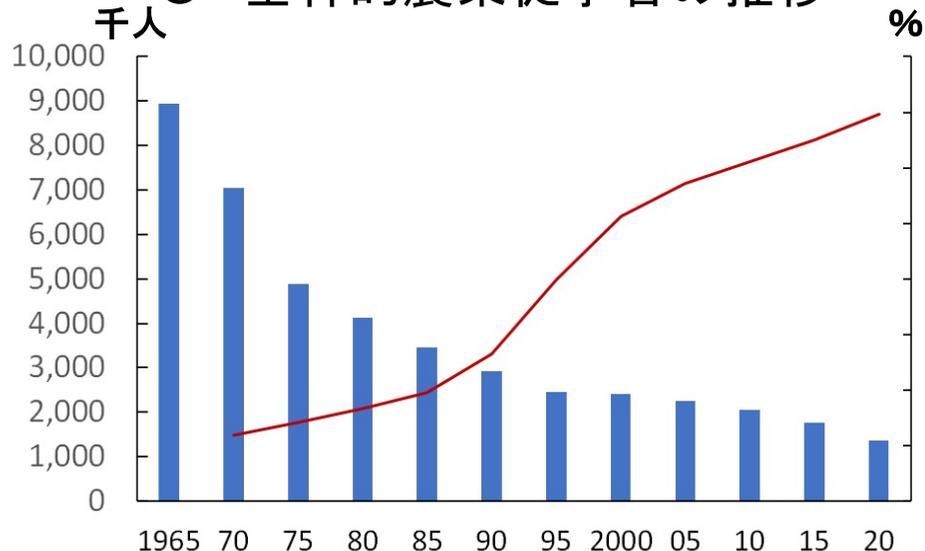
【38%】食料自給率の低下は

私たちの(食生活の変化の)せい?!

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/index.html>

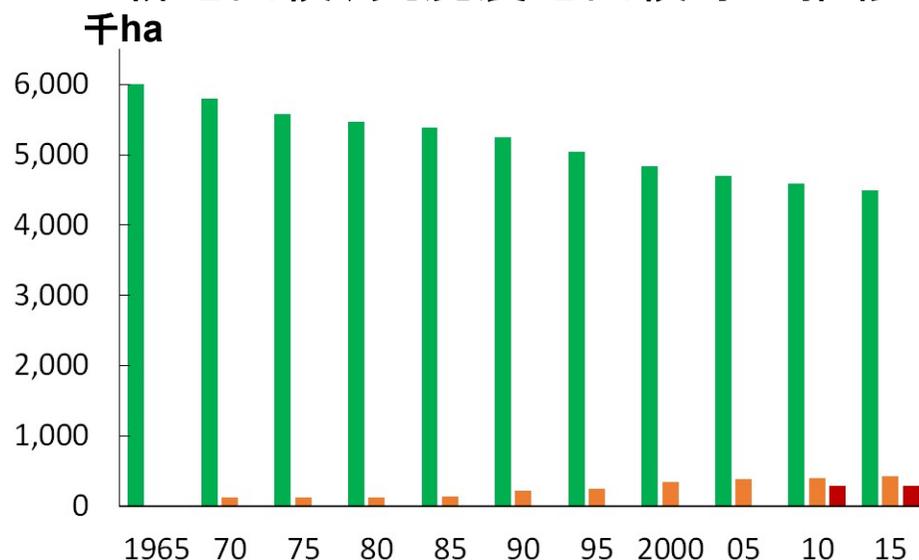
問題⑤ 生産基盤がぜい弱化している。

○ 基幹的農業従事者の推移



■ 基幹的農業従事者数 — 65歳以上の割合

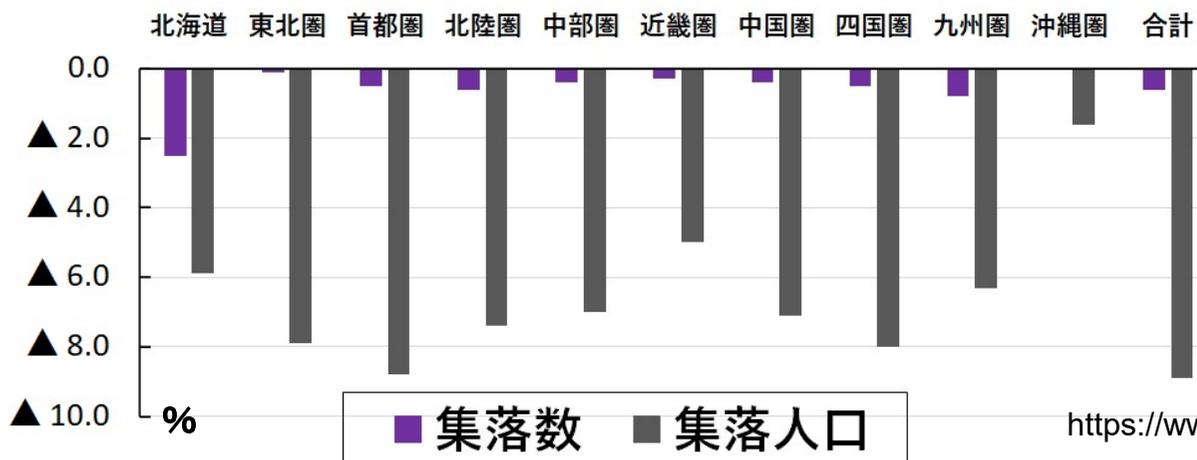
○ 耕地面積、荒廃農地面積等の推移



■ 耕地面積 ■ 耕作放棄地 ■ 荒廃農地

資料: 農林水産省「農業センサス」 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/index.html>

○ 集落数、集落人口の減少率(2015-19)



■ 集落数 ■ 集落人口

生産者や産地のことに、
想像力が
及ばなくなっている！
(共感の欠如、他人事)

資料: 総務省
「過疎地域における集落の状況に関する
現状把握最終報告」(2020.3)

https://www.soumu.go.jp/main_content/000678496.pdf

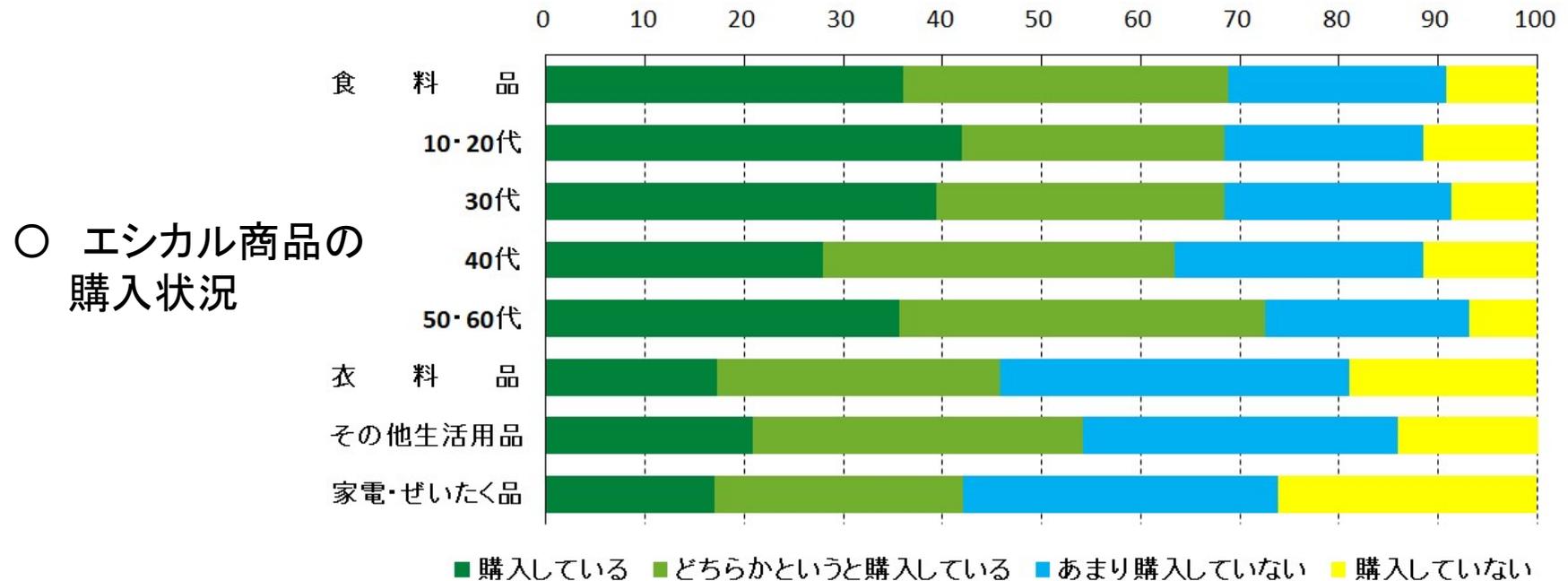
ところで「距離の拡大」って、食べものや農業だけの問題なの？

科学や技術が巨大化、複雑化、専門化し、目に見えにくくなっている。

⇒再び、市民の手に取り戻ることが必要。(今こそ「市民科学！」)

食や農は、その先駆けになり得るのでは。

(大切に身近。自ら選択できる余地が大。地域の風土や伝統と密着)



資料: 消費者庁「倫理的消費(エシカル消費)に関する消費者意識調査」(2017年2月)

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/ethical/investigation/

(自戒を込めて) 評論や批判ではなく(それも大切だけど)、
食や農が抱える課題を「自分ゴト」として捉え、
一人ひとりが、できることから、実践に移していくことが大切では。

スケジュール及び話題提供を頂く方

第1回 6月8日(火)

「1億農ライフ～都市のわたし達による食の革命」(仮題)

小谷あゆみさん(農ジャーナリスト、ベジアナ)



第4回 9月7日(火)

「市民協働による関係人口づくりを通じた持続可能な社会づくり」(仮題)

大和田順子さん

(同志社大学ソーシャル・イノベーションコース教授)



第2回 7月13日(火)

「私が帰還困難区域で牛を飼う理由」(仮題)

谷さつきさん(もーもーガーデン、福島・大熊町)



第5回 10月5日(火)

「私がお寿司に巻き込んでいるもの」(仮題)

八幡名子さん(巻き寿司やさん、東京・八王子)



第3回 8月10日(火)

「現場から見える日本の食、農の課題」(仮題)

榎田みどりさん(農業ジャーナリスト)



第6回 11月9日(火)

「食と資本主義の歴史一人も自然も壊さない経済とは？」

平賀 緑さん(京都橘大学准教授)

